

# 研究タイトル：「地域医療における“かかりつけ管理栄養士”の必要性和普及啓発」

代表研究者：井尻 吉信（大阪樟蔭女子大学 教授）

## 1. 【背景】

生活習慣病の発症や進展には、食習慣の乱れが深く関わっている。そのため、個人の身体状況や栄養状態、食事摂取量等を的確に評価した上で、主に食習慣の改善を目指した栄養食事指導を実施する管理栄養士の役割が注目されている。より早期に適切な栄養食事指導が実施できれば、生活習慣病の予防・治療はもとより、フレイル（虚弱）の予防・治療にも繋がり、健康寿命の延伸や国民医療費の削減など、人生100年時代を見据えた高齢者医療への貢献が大いに期待できる。

一方、地域に開かれた一般診療所（以下、無床診療所とする）には、管理栄養士の配置規定が存在しない。そのため、管理栄養士を雇用している無床診療所はごくわずかであり、通院患者に対する栄養食事指導が十分に実施できていない可能性が高い。また、自宅に戻った際、病院や老健施設等での栄養管理計画が引き継がれず、野放し状態になっているケースも散見される。さらに、在宅療養患者に対する在宅訪問栄養食事指導の実施率も低く、これらの問題を解決するための仕組みづくりが必要である（図1参照）。

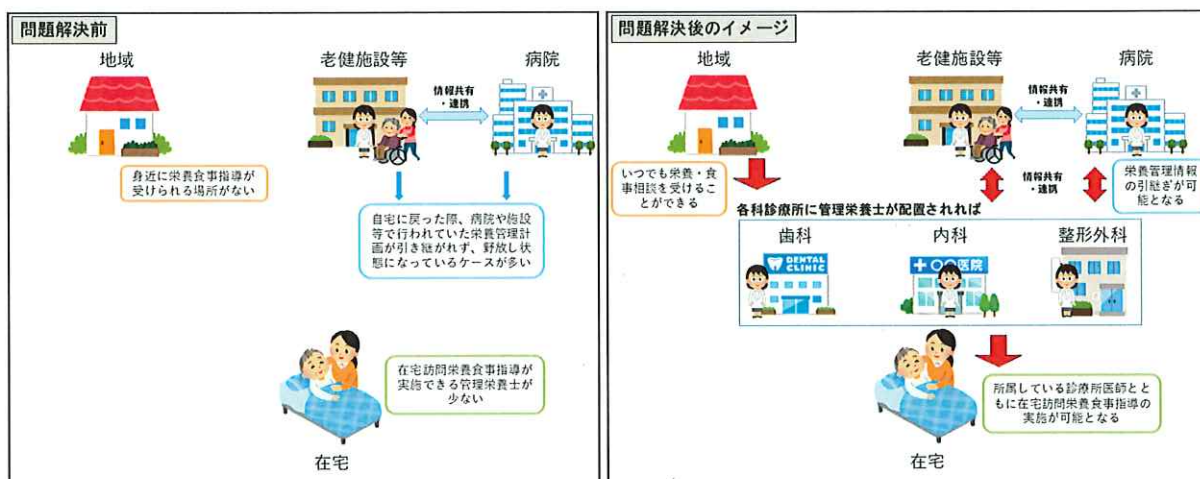


図1 地域医療における栄養領域での問題点と理想的な解決イメージ

## 2. 【目的と方法】

研究①では、大阪府南河内地域周辺に開院している内科クリニック（504件）に対して、「無床診療所における栄養指導の現状に関するアンケート」を送付・回収し、管理栄養士の必要性や栄養指導の問題点等を解析すること。また、医療機関名称に「整形外科」を含む、大阪府下のクリニック（494件）に対しても同様のアンケート調査を行い、整形外科クリニックにおける現状も明らかにすることを目的とした。

また、研究②では、整形外科クリニック通院患者のうち、オステオサルコペニア（サルコペニアと骨粗鬆症の併存、以下OSP）該当率を明らかにすること。さらに、管理栄養士による栄養食事指導の有用性を証明するため、OSP患者に対する継続的な栄養食事指導の効果を明らかにすることを目的とした。K整形外科クリニック（大阪府東大阪市）に通院中のOSP患者7名を対象とし

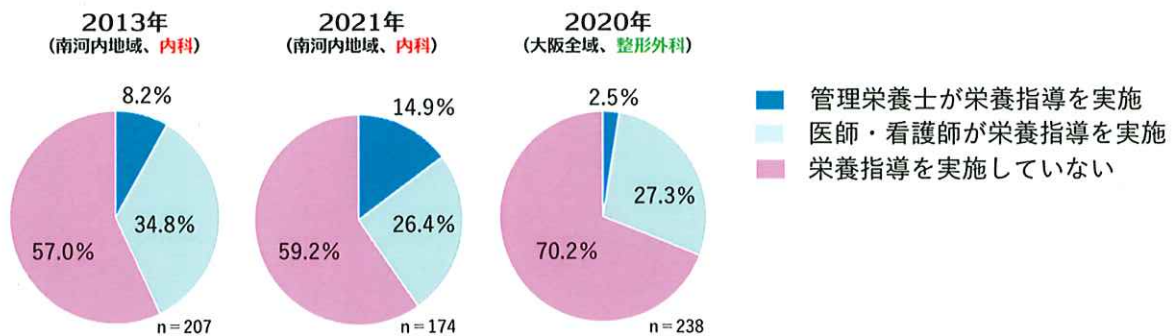
て、管理栄養士による6ヶ月間（1回/月）の継続的な栄養食事指導の効果を検証した。すべての対象者は、介入初回と介入終了時に身長、体重、下腿周囲長、握力、5回椅子立ち上がり時間、体組成の測定、ロコモ度問診に加えて骨密度、血液検査、食事摂取頻度調査（FFQg）とCa or VDクイズを行った。

これらの研究に加え、“かかりつけ管理栄養士”の必要性を普及・啓発していくため、様々な実践活動に挑戦した。

### 3. 【研究① 結果と考察】

内科クリニックを対象とした調査におけるアンケート回収率は34.5%（174/504施設）であった。そのうち、「管理栄養士が栄養指導を実施している」と回答した施設は14.9%（25/174施設）、「医師・看護師が栄養指導を実施している」と回答した施設は26.4%（46/174施設）、「栄養指導を実施していない」と回答した施設は59.2%（103/174施設）であった。同地域で行った2013年の調査<sup>1)</sup>では、管理栄養士による栄養指導実施率が8.2%であったことから、この9年間（2016年度診療報酬の大幅なプラス改定を含む）で管理栄養士の認知度向上と雇用の促進が一定数あったことが示唆された。

整形外科クリニックを対象とした調査におけるアンケート回収率は48.2%（238/494施設）であった。そのうち、「管理栄養士が栄養指導を実施している」と回答した施設は2.5%（6/238施設）、「医師・看護師が栄養指導を実施している」と回答した施設は27.3%（65/238施設）、「栄養指導を実施していない」と回答した施設は70.2%（167/238施設）であった。整形外科クリニックにおいては、管理栄養士の栄養指導は皆無に等しい状況であることが明らかとなった。栄養指導の対象疾患は、骨粗鬆症（診療報酬算定外）が83.1%と最も多かった。



### 4. 【研究② 結果と考察】

K整形外科クリニックに通院中の患者におけるサルコペニア該当率は31.7%、ロコモ該当率は81.0%、骨粗鬆症該当率は74.6%であった。骨粗鬆症単独に比べ、死亡率が有意に高値であると報告されているOSP該当率は30.2%であり、地域在住高齢者の有病率4.7%<sup>2)</sup>に比べ、はるかに高い結果となった。さらに、サルコペニア該当群における骨粗鬆症併存率は95%と極めて高い結果であった。つまり、サルコペニアと診断された患者の大部分がOSPであったということである。このことから、これまでほとんど実施されていなかったサルコペニア診断を、整形外科クリニックで行う意義は大きいと考えられた。

OSP 患者 7 名に対する管理栄養士の定期的な栄養食事指導は、介入期間前後の栄養素摂取量および食品群別摂取量には影響を及ぼさなかったが、認知度クイズにおけるビタミン D 認知度点数ならびに血清 VD 値を有意に増加させた。また、四肢骨格筋指数 (SMI) や骨密度には影響を及ぼさなかったが、5 回椅子立ち上がり時間を有意に改善 (時間短縮) させた。管理栄養士による継続的な栄養食事指導が 5 回椅子立ち上がり時間を短縮させたメカニズムは不明であるが、そのメカニズムの一つに、血清 VD 濃度の増加に伴う姿勢の安定化<sup>3)</sup>や身体パフォーマンスの向上<sup>4)</sup>が関与しているのかもしれない。

研究②は、対象施設が大阪府東大阪地域の 1 施設であった点に限界がある。また、研究③では、研究協力人数が少なかったことや研究期間に制限があったことなどから、対象群を設定することができなかった。今後は、調査施設数を拡大するとともに、適切な対象群を設定した研究へと発展させていく予定である。

#### [引用文献]

- 1) 井尻吉信, 廣岡咲, 西尾春花. 大阪樟蔭女子大学紀要 10: 225-32, 2020
- 2) Yoshimura N, Muraki S, Oka H et al. Osteoporos Int 28: 189-99, 2017
- 3) Boersma D, Demontiero O, Mohtasham AZ et al. J Nutr Health Aging 16:270-5, 2012
- 4) Wicherts IS, van Schoor NM, Boeke AJ et al. J Clin Endocrinol Metab 92:2058-65, 2007

## 5. 【実践活動の内容とその評価】

### (1) 「管理栄養士と開業医がコラボする会」の開催

2021 年 7 月 17 日、会場&オンラインのハイブリッド形式で研究会を開催した。当日は、管理栄養士を雇用している内科医師、歯科医師、在宅専門の医師、管理栄養士が登壇し、各専門領域での管理栄養士の活躍状況を報告。会場 25 名、オンライン 50 名の参加者があり、診療報酬改定に伴う“かかりつけ管理栄養士”の在り方について、熱い議論が繰り広げられた。また、この模様は、栄養系専門誌ヘルスケアレストラン(日本医療企画)や診療所医師向け専門誌 Clinic Bamboo (日本医療企画)に掲載された。

### (2) 「管理栄養士と開業医がコラボする会」のホームページ開設

これまで、当研究会にはホームページがなく、外部に向けて“かかりつけ管理栄養士”の存在意義をアピールする手段がなかった。そこで、右記 (QR コード参照) のようなホームページを 2021 年 6 月に開設した。現在、クリニック管理栄養士の活躍事例等も掲載し、SNS 等を利用して啓発活動に活用している。



### (3) オンラインサークル「繋がるクリニック管理栄養士 (つなかん)」の立ち上げ

地域のクリニック (内科、歯科等) に勤務している管理栄養士は、一人職場である割合が高く、多くの悩みを抱えがちである。そこで、オンラインをうまく活用し、クリニック管理栄養士の横の繋がりを作るためのサークルを立ち上げた。第 1 回 (2021 年 4 月 29 日) は 14 名、第 2 回 (2021 年 9 月 2 日) は 23 名、第 3 回 (2022 年 1 月 20 日) は 16 名の参加者があった。各回には、内科

クリニック（スポーツ栄養含む）、歯科クリニック、病院、調剤薬局、フリーランスなどの管理栄養士が参加し、「栄養指導のやりがい」「医師との考えの相違点」「仕事を創り出していく手段」などを議論した。今後は、オンライン栄養食事指導等の多施設共同研究なども視野に入れて、積極的に情報交換を行っていく予定である。

#### (4) オンライン栄養食事指導の実施

2020年度診療報酬改定により外来栄養食事指導料が見直され、情報通信機器等を用いた継続的なフォローアップ（2回目以降）に対して、外来栄養食事指導料が算定できるようになった。しかしながら、診療時間外での実施希望者が多いことや、ハード面での問題等があり、大部分のクリニック・病院で実施できていない現状がある。そこで、共同研究者（実践家医師）のご協力のもと、中高年糖尿病男性患者2名に対し、オンライン会議アプリ（zoom）を用いた継続的なオンライン栄養食事指導を実施した。その結果、体重やHbA1cが著減することが示された。働き盛りのサラリーマン等を対象としたオンライン栄養食事指導は、場所や時間を問わずに実施でき、かつ十分な治療効果に繋がる可能性がある。

#### (5) 主任介護専門員に対する啓発セミナーの開催

大阪府下の主任介護専門員（ケアマネージャー）を対象に、「コロナフレイルと『食』～今私たちがすべきこと～」と題して、コロナフレイルにおける栄養管理の重要性と“かかりつけ管理栄養士”の意義について講演した。本セミナーは、大阪府主任介護専門員資質向上研修の一環として行われた。参加された約100名のケアマネージャーからは、「高齢者に対する栄養管理の重要性と管理栄養士の役割が詳しく理解できた」「管理栄養士を身近に感じた」「今後は積極的に連携したい」など、多くの嬉しい声が寄せられた。参加者には、日本栄養士会がすすめている栄養ケア・ステーションの連絡先や、本学大学院附属くすのき健康栄養センターの連絡先をお伝えし、今後の連携に活用頂けるように促した。

#### (6) “かかりつけ管理栄養士”啓発用の動画・パンフの作成と発信

“かかりつけ管理栄養士”のイメージ動画の撮影と、その情報を掲載した啓発パンフレットの作成をするために準備をすすめてきたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、クリニックでの撮影が2度も延期となってしまった。今後、撮影が完了した暁には、本動画URLを啓発パンフレットに掲載するとともに、大阪府下の多くのクリニックに直接郵送する予定である。また、管理栄養士と開業医がコラボする会のホームページやSNSを活用しながら、広く発信していく予定である。

## 6. 【謝辞】

本研究を遂行するにあたり、助言ならびに助成を頂きました公益財団法人日本生命財団に深謝申し上げます。